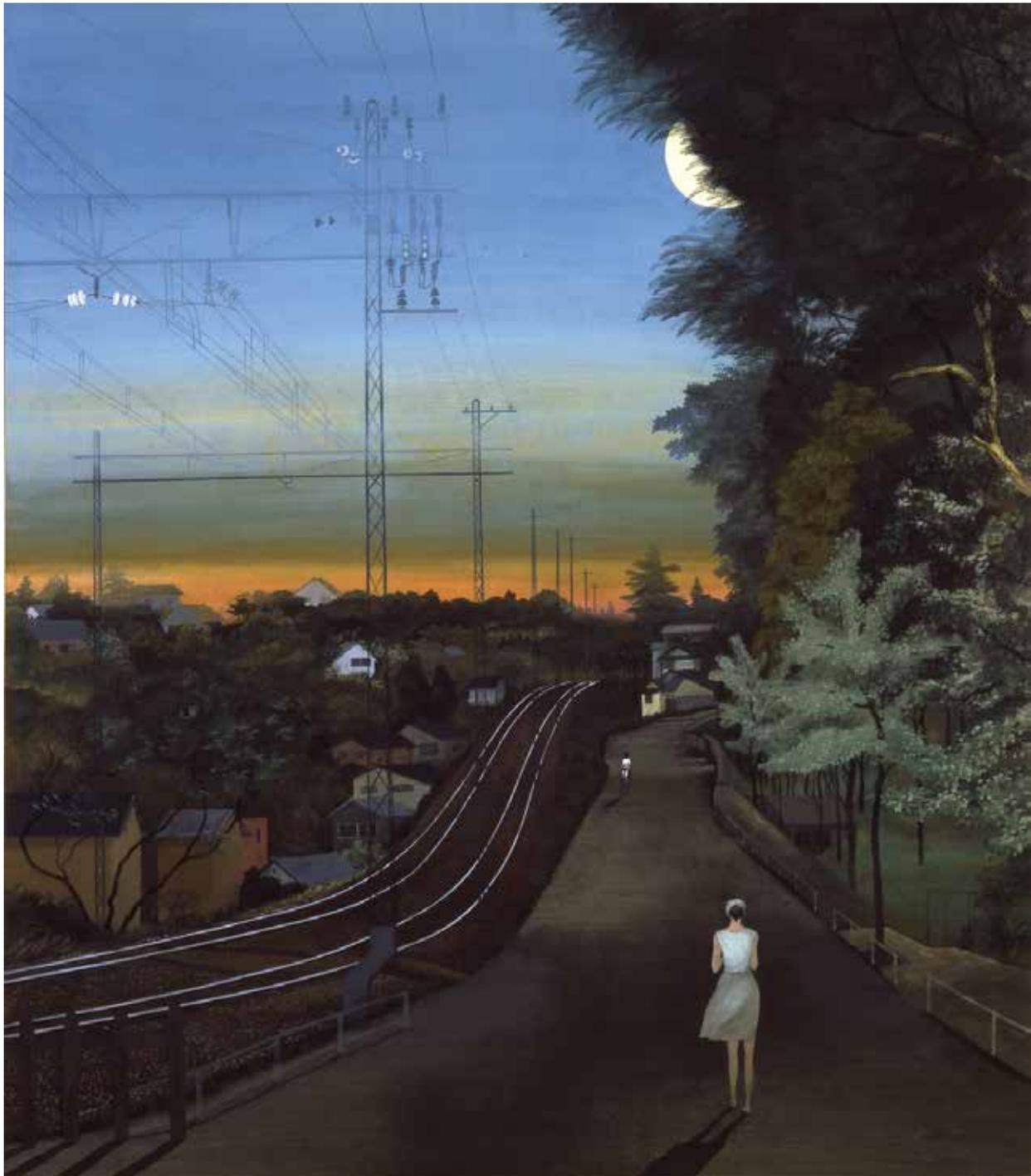




2015.
9.11 Fri.—
11.3 Tue.

ここだけの日本画



下村観山、川端龍子、野長瀬晩花、稗田一穂など——
和歌山に集った、名品の数々。

稗田一穂 《帰り路》 1981

日本画家・千住博氏による講演会を開催
10月25日(日)「日本画とは何か。恩師・稗田一穂先生から学んだこと」

ここだけの日本画

2015年9月11日(金)～11月3日(火・祝)



1.

豊かな歴史や文化を持つ和歌山は、日本画の分野でも近現代美術を開拓してきたすぐれた画家を輩出し、また多くの日本画家が風光明媚なこの地を訪れ画題としてきました。この展覧会では、当館が和歌山ゆかりの日本画家を中心にして培ってきた日本画コレクションの中から、代表的な作品をご紹介します。

東京美術学校を経て、日本美術院の創設に携わった^{しも}村観山^{むらかんざん}（1862～1930）、同じく東京美術学校を卒業後、同院で活動し、のちに青龍社を主宰した^{かわばたりゅうし}川端龍子（1885～1966）は、ともに東京で活躍した和歌山市出身の画家です。当館の所蔵品の中でも注目される彼らの作品は、それまでの日本画のあり方に一石を投じました。

一方、和歌山県田辺市中辺路町出身で、京都市立絵画専門学校で画を学び、国画創作協会の設立に加わった^の野長瀬晩花^{ながせばんか}（1889～1964）を軸に、同会会員の^{つちだぼくせん}土田麦僊（1887～1936）・^{むらかみかagak}村上華岳（1888～1939）らのほか、同会にも参加した^{ひだかしょうこく}日高昌克（1881～1961）、日本南画院で活躍した^{やまくちはちくし}山口八九子（1890～1933）など和歌山に縁深い作家を含め、当館ではその周辺の京都画壇に関しても収集を進めてきました。今や当館の日本画コレクションの大部分を占めるこれらの作品には、目覚ましく揺れ動く京都の日本画の状況がうかがえます。



2.

さらに、戦後関西で結成されたパンリアル美術協会の^{みかみまこと}三上誠（1919～1972）、^{しもむらりょうのすけ}下村良之介（1923～1998）らの、日本画の従来の枠組みを超えた前衛的な表現から、現在も第一線で活躍する和歌山県田辺市出身の^{ひえだかずほ}稗田一穂（1920～）の日本画の伝統に根ざした詩情あふれる表現にいたるまで、幅広い作風をもつ当館所蔵の現代作品も、日本画の新たな可能性を考える上で欠かせない存在です。

本展覧会では、主に当館の所蔵品から和歌山ゆかりの作家や同時代の作家の名品を展示し、伝統と革新が交錯する近現代の日本画の魅力に迫ります。



3.



4.



5.



6.

1. 野長瀬晩花《被布着たる少女》1911
 2. 日高昌克《草》1923
 3. 下村良之介《夜の曲》1951
 4. 山口八九子《月見草と少女》1912頃
 5. 土田麦僊《梅ヶ畑村》1915
 6. 秦テルヲ《吉原の女》1916頃
- 表紙・稗田一穂《帰り路》1981

掲載用画像については
広報担当に
お問合せ下さい。

開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 2階展示室
会期	2015年9月11日(金)～11月3日(火・祝)
開館時間	9時30分～17時(入場は16時30分まで)
休館日	月曜日(ただし9月21日(月)、10月12日(月)は開館し、9月24日(木)、10月13日(火)が休館)
観覧料	一般510(410)円、大学生300(250)円()内は20名以上の団体料金 *高校生以下、65歳以上、障がい者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *9月26日(土)、10月24日(土)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

関連事業

- 講演会
10月25日(日)「日本画とは何か。恩師・稗田一穂先生から学んだこと」千住博(日本画家・京都造形芸術大学教授)
14:00～15:30 2階ホールにて ※先着120名 当日9:30から整理券を配布します
- フロア・レクチャー(学芸員による展示解説)
9月26日(土)、10月4日(日)、10月24日(土) 14:00より 2階展示室にて ※申込不要

【同時開催】

コレクション展 2015 一秋
特集展示 生誕120年 へんみたかし 逸見享

【会期】9月19日(土)～12月6日(日)

【会場】1階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：藤本真名実 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>